

許せますか 米軍の勝手放題

空母艦載機の移駐から3年——。米軍岩国基地は、所属機120機を超え、東アジア最大級の航空基地に変貌し、最新鋭ステルス戦闘機F35Bの追加配備など、機能拡大・強化が続いています。出撃基地化・軍事拠点化が進むなかで、米軍による無法・勝手放題の低空飛行訓練など、基地被害が岩国市周辺から中国地方全域に広がっています。



岩国基地ではおこなわないとしているFCLP(着艦訓練)同様の訓練も恒常化(戸村良一さん提供・行動の写真集から)

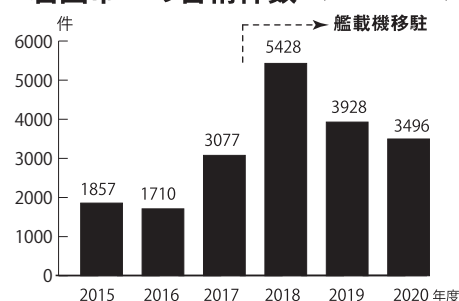
岩国市と
その周辺

増える爆音被害——くらしを直撃

岩国基地は戦後、旧日本海軍の飛行場を米海兵隊が接收し、朝鮮戦争やベトナム戦争では、出撃基地となりました。米兵による犯罪は後を絶たず、航空機による事故も数えきれません。

爆音・騒音被害は、米軍の運用・訓練が最優先され、「会話が聞き消される」「電話の音が聞こえない」「たびたび睡眠を妨害される」など、住民を苦しめてきました。

岩国市への苦情件数 (航空機騒音)



た。国は米軍のやりたい放題を容認。事故と騒音被害の軽減を目的にした滑走路の沖合移設事業(2010年5月運用開始)も、空母艦載機の移駐によって騒音被害軽減につながらず、岩国市に寄せられた苦情件数は艦載機移駐後2倍に…。09年に提訴された住民訴訟では、最高裁が耐え難い被害を認定し損害賠償が確定しています。

宮島や原爆ドーム上空も

艦載機が移駐して以降、世界遺産・厳島神社のある宮島では、70 dB以上の騒音発生回数がそれまでの2倍以上(20年度)にもなっています。宮島は米軍や防衛省が示す標準飛行コースから外れているにもかかわらずです。さらに、広島市街地・原爆ドーム上空を飛行する米軍機が頻繁に目撃されています。

拠点化

相次ぐ外来機の飛来・訓練

騒音など基地被害を広げているのは、岩国基地所属機だけではありません。沖縄・普天間基地から本土へ向かうオスプレイの立ち寄り恒常化し、青森・三沢基地や沖縄・嘉手納基地、東京・横田基地の戦闘機や輸送機など

ども頻繁に姿を現しています。昨年末には、米空軍のB1戦略爆撃機2機が「受け入れ能力の確認」と称して飛来したほか、今年3月には、ハワイから6機のF22戦闘機が飛来し数週間、岩国基地を拠点に訓練をおこなっています。

F22 ステルス戦闘機



B1 戦略爆撃機



(戸村良一さん提供)

中国地方
山間地域

低空飛行訓練の急増で墜落の恐怖

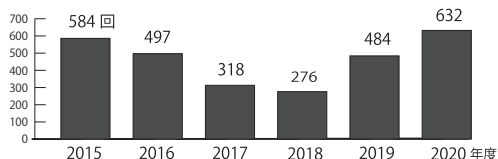
米軍機の飛行・訓練は、日米安保条約・地位協定によって、日本の航空法などによる規制を受けず、勝手放題がまかり通っています。

中国地方を縦断する中国山地に沿ったいわゆる「ブラウンルート」や島根県西部から



ら広島県北部にかけた「エリア567」では、空対空戦闘訓練(ドッグファイト)、

浜田市旭町で最大 70 dB以上を記録した騒音回数(国設置分)



川や道路など地形をなぞる飛行、急降下・急上昇による対地攻撃訓練など、さまざまな訓練が行われ、直下住民は騒音被害と墜落事故の恐怖に苦しめられています。艦載機が岩国基地に帰還した昨年11月から今年にかけて急増しています。

進む

日米の軍事一体化 呉・美保 日本原

自衛隊呉基地の護衛艦「かが」の空母化(F35B搭載)や鳥取・美保基地のC2輸送機配備、空中給油機KC46Aの配備予定、岡山・日本原演習場での米軍単独訓練など、日米の軍事一体化のなかで、岩国基地の機能拡大・強化が押し進められているのが大きな問題です。

安全軽視

未熟な操縦士を配属
規律違反や薬物乱用

米軍の「安全軽視」「住民無視」の姿勢は、一昨年、昨年と相次いで発表された「高知沖の空中給油訓練中の墜落事故」(2018年)調

査報告書で問題になりました。事故の背景として、飛行中の読書やヒゲ剃りなど規律違反の横行や薬物乱用が明らかになったほか、

岩国基地に米国本土と比べて未熟なパイロットを偏って配属していた実態も指摘され、住民の怒りを買いました。